

会員企業紹介

わが社の

イチオシ

リサイクルループの確立 生ゴミの液体肥料化装置



日本ゼウス工業(株)

常務取締役 田中光太郎 氏(桐生支部所属)

Q & A

▼会社概要

生ゴミの液体肥料化装置(有機土壌活性液製造装置)の設計・製造・販売、同装置を使った肥料の製造・販売、オゾン発生装置の製造・販売など、「循環」や「持続」をキーワードに事業を行っています。

約四十年前に水質汚濁防止法が施行され、織物のまち・桐生では染色排水の問題が取り沙汰されていきました。そうしたなか、父(現社長)が無害化廃水処理の技術指導と普及に取り組んだことが会社の始まりです。以来、「水や空気、自然環境をキレイにすること」を頑固一徹に貫い

てきました。

バブルの時代には「儲からない仕事」と周りから揶揄されるなど、決して順風満帆な歩みではなかったようですが、環境意識の高まりとともに、何とか事業を継続させて現在に至ります。

▼イチオシ

当社の生ゴミ液体肥料化装置「あぜりあ」は、食品加工場や飲食店、学校給食などから排出される食品残渣を原料として、複合微生物群の働きにより液化発酵処理を行い、「アミノ酸を中心とした有機液体肥料」を生成します。

基本的に生ゴミは毎日排出されるもので、処理に時間が掛かれば掛かるほどストックスペースが必要となります。「あぜりあ」は、生ゴミ投入後、二十四時間と極めて短時間で畑に戻せる状態にまでするため、毎日排出される生ゴミを円滑に処理することが可能です。

また、できあがった液体肥料は良質なアミノ酸と共に微量要素(ミネラル)を含み、活性化された微生物が土壌を肥沃に改良していきます。その結果、丈夫で健康、甘くて美味しい作物が生産できます。



▼アグリ事業部

生ゴミからリサイクルされた肥料を使って農業や化学肥料に頼らない農法(BePCCS農法)の実証実験を行い、長い年月を掛けてデータを蓄積してきました。また、同肥料を使ったリサイクルループのモデルケースとして、昨年度から自社でも本格的な野菜の生産を行っています。

現在、自社生産の野菜を飲食店や食品加工業者、一般顧客などに直接販売しています。「甘くて美味しい」「繊維のキメが細かい」など、ありがたい言葉のほか、「こんな野菜がほしい」「カット販売したらどうか」といった要望・提案もいただけます。エンドユーザーと直接、もしくは近い関係でのつながりが、今後はさらに大事になることを肌で感じます。

▼展望

野菜の生産が軌道に乗れば、その加工販売への挑戦、相乗効果として肥料化装置の販売増や産業廃棄物処理事業の展開など、可能性は無限に広がります。想像するだけでワクワクしてきます。

人間は誰しもできない理由を見つけるのは得意です。今はその理由を一つ一つ取り除いていく最中にあります。どうやったらできるか、次につなげるにはどうするか、もつともつと考えなければなりません。

循環型・持続型の社会を構築しなければ、必ず将来にツケが回ります。そうした不安は自分の子供が生まれて、ますます強く感じるようになっていきました。創業の想いである「自然との共生」の実現に向け、邁進していきます。

所在地／桐生市広沢町3-3840
連絡先／TEL0277-52-5434
URL／<http://n-zeusu.co.jp/>

